

プログラム2 「Yawaragi プログラム」

学部等名	学部共通
目的	社会を生き抜く力を身に付ける
プログラムの概要	本プログラムは、本学の教養基礎科目で開講されている人文科学、社会科学、自然科学、複合領域の分野を総合的に学ぶことで、社会を生き抜く力を身に付けています。
プログラムの総時間数	247.5 時間
修了に要する時間数	67.5 時間以上
定員	5名
修了要件	11科目の中から3科目以上を履修すること
申込先	羽島教務課(羽島キャンパス7号館1階)
履修料	検定料5,000円、科目履修料 2,500円×単位数

修了要件受講科目一覧

授業科目名	日本文化論 「ことばと文化のむすびつき」	担当教員名	濱中 誠
授業の方法	講義 22.5 時間(15週にわたり週1回 90分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス・岐阜キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2単位(¥5,000)	開講期	(岐阜C)前期・(羽島C)後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 ことばと文化との間には強いむすびつきがあるということを理解することが目標です。そのために、ことばに関する興味深い事象をいくつか紹介してみたいと思います。後半は、ことばや文化がどのように伝播するのかについて見ていきます。「方言学」のもっとも基礎的な概念を理解した上で、身近なことばである方言を学ぶことにどのような意味があるのか、自分なりの答えを探してほしいと思います。</p> <p>【授業の概要】 ことばと文化のむすびつきを理解するために、言語学や方言学のもっとも基礎的な考え方について説明します。ことばとはどういうものなのか、方言を研究するということにどのような意味があるのかについて考えていきましょう。</p>		
授業科目名	心理学概論 「心の仕組みを考える」	担当教員名	高村 和代 蔵富 恵
授業の方法	講義 22.5 時間(15週にわたり週1回 90分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2単位(¥5,000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 ①心理学の成り立ち及び人の心の生理学的基礎について概説できる。 ②人の感覚・知覚、記憶、学習、感情などの基本的なしくみ及び働きを理解し、心理学用語を用いて説明ができる。 ③発達、社会および臨床心理学の領域について、人の心の基本的な仕組み及び働きを学習し、心理学用語を用いて説明ができる。</p> <p>【授業の概要】 心理学は心の問題を扱うもっとも中心的な学問であるが、心をどのようにとらえるかは、同じ心理学でも領域によってさまざまである。そこで本授業は、心理学でのさまざまな“心の見方”を概観しながら、人の心理についての理解を深めることを目指す。そして心理学における基礎知識やものの考え方を身につけることを目標とする。</p>		

授業科目名	心理学「『見えない心』の『見える化』を考える」	担当教員名	石田 開
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	岐阜キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	前期・後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 本学の教養基礎科目群「Yawaragi Basis」の 1 科目として、大学での、あるいは卒後における、多様な学びの基礎の一面をつくる。 特には、「心」という目に見えないものを、心理学がどのように理解するのか、その考え方を理解する。</p> <p>【授業の概要】 大学での学びは学部により具体的には異なるが、全学部が広い意味で人間を対象としている。 そして、心理学はその名の通り、人間（を始めとした動物）の「心」を追究するが、「心」は直接見ることができない。 個々人の性格、他者に対してどう感じるか、どんなときに行動する気になったりならなかったりするのか、見聞きしたものを覚えたり忘れたりするのはどのような現象なのか、そもそもものを見聞きするだけでもそこに心がどのようにかかわるのかなど、本授業では「心」の様々な側面について、どう「見える化」するのかを伝える。</p>		
授業科目名	映画学 「映画を楽しむ」	担当教員名	寶壺 貴之
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス・岐阜キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	(羽島 C) 前期・(岐阜 C) 後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 アメリカ映画のいくつかの作品についてその俳優にフォーカスを置いて授業で学び、そこから異文化について学習し、登場人物から人生観についても学ぶ。名画についてはそこで使用されている英語表現について、映画から英語の名セリフを学ぶことによって学生の英語学習の動機づけを高めることも目標とする。最終的には、好きな映画についての紹介レポートをグループで役割分担して作成できるようになる。</p> <p>【授業の概要】 一般に映像の利点はその面白さと分かりやすさにあり、学習と理解が帰納的になる。本講義では、アメリカハリウッド映画の有名な俳優を取り上げて、その人生や活躍の日々について英語の文章を読み学習する。映画スターの知識や英語の基礎的な能力を養うと共に授業では、俳優が出演している映画の何作品かについて、使用されている名セリフ（言語表現）を通して楽しく学習し、登場人物から人生観についても学ぶ。授業の後半部分では、学生によるグループ学習を行う。選択した映画について、調査・学習してグループ発表を行うので学生同士のインターラクションを大切にして、共通の課題に取り組む姿勢を養うことにも努力を傾けてほしい。</p>		
授業科目名	災害と危機管理 「自然災害への備え」	担当教員名	岩月 健吾
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	前期・後期
授業内容	【到達目標及びテーマ】		

	<p>自然災害がどのようなメカニズムで発生するのかを理解し、災害が発生した際にその被害を抑えるための知識と対応を身につける。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>本講義では、自然災害の発生メカニズムおよび事例から教訓、自然災害の影響を小さくするために必要な知識と備えについて学ぶ。また、講義課題を通じて、各自の防災マニュアルの作成に取り組む。</p>		
授業科目名	法学（国際法を含む。）「社会生 活のルールを学ぶ」	担当教員名	吉田 夏彦
授業の方法	講義 22.5 時間(15週にわたり週1回 90分受講)		
キャンパス	岐阜キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	前期・後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <p>(1) 法律というものが私たちの生活に深く関わっているものであることを理解した上で、現実の社会が抱えるさまざまな問題につき、法律的なものの考え方ができる。</p> <p>(2) 法学、憲法に関する総合的な知識の習得を目指すとともに、主権の担い手である国民として、わが国の政治のあり方について理解を深める。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>(1) 一般に難しいと考えられている法律の基礎的な概念を、具体的な事例を豊富に挙げて、できる限り分かりやすく解説する。</p> <p>(2) 日本国憲法の基本原理である、国民主権主義、基本的人権尊重主義、恒久平和主義を解説する。</p> <p>(3) 日本国憲法が規定する国会と立法権、内閣と行政権、裁判所と司法権について、三権の関係性を含めて解説する。</p> <p>(4) 日本国憲法の規定の中でも、とりわけ私たちの生活に直接関わる財政と地方自治について解説する。</p> <p>(5) 最後に、日本国憲法の最高法規性を維持するための憲法保障制度について解説する。</p>		
授業科目名	生物と環境 「地球に生きる私たち」	担当教員名	浦和 博子
授業の方法	講義 22.5 時間(15週にわたり週1回 90分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス・岐阜キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	(羽島 C) 前期・(岐阜 C) 後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <p>生物と環境の相互作用について理解し、生物多様性、環境問題、持続可能な社会についての知識を深め、説明することができる。</p> <p>現代の環境問題について論じることができる。</p> <p>環境保全の視点を持つことができるようになり、持続可能な社会の実現に向けた解決策を考察できるようになる。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>生物と環境の相互作用、人間活動が自然環境に与える影響を理解し、生態学の基礎、環境問題の現状、持続可能な社会の構築について考え、実践的な知識や問題解決力を身につける。</p>		
授業科目名	数学	担当教員名	船越 紫
授業の方法	講義 22.5 時間(15週にわたり週1回 90分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目

単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 数学が私たちの生活に深くかかわっていることを理解するとともに、数学という視点から物事を考えることができる。</p> <p>【授業の概要】 これまでの数学の学習を通して身に付けた数学という道具を使って、私たちの生活場面を見直してみる。数学を通してみてみると、これまでとは違ってみえるものがある。また、そうした場面での問題に取り組むことで、身に付けてきた知識や考え方方がより確実な、使いやすい道具となることを目指す。授業においては、生活の場面から問題を抽出し、その問題に取り組んでいく。私達の生活や社会には高度な数学が駆使されているが、授業では高等学校までの必須として学習した数学の内容で解決ができる問題を取り扱う。一方、数学パズルに取り組み、数学を楽しむ。</p>		
授業科目名	数学「数字と計算で人（相手）に伝える」	担当教員名	斎藤 克典
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	岐阜キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 いくつかの数学の話題を通して、数学の基本的なものの見方・考え方慣れ、それらを見につけることを目標とする。その第一歩として与えられた数学の問題を自分で解けるようになることを目標とする。</p> <p>【授業の概要】 いくつかのテーマに沿った問題に取り組んでもらいながら講義を進める。中学・高校で習った基本的な内容から発展的な内容まで扱う。必要な知識は講義中に説明するので、好奇心を持って講義に臨んでほしい。 また講義内では毎回演習を行う。それらに真面目に取り組むことを期待する。数回ごとにまとめと到達度確認のためのテストを行う。</p>		
授業科目名	岐阜学 「岐阜を知る」	担当教員名	秋山 晶則
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	前期・後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 持続可能な地域社会のあり方を考える際、重要な鍵の一つとなるのが、地域が成り立ってきた歩み、歴史文化への深い理解であろう。それは、現在を相対化するとともに、異なる文化を尊重するものでもありたい。本講では、キャンパスが立地するエリアを中心に、関連する史料を批判的に読み解きながら、地域の歴史文化を理解する確かな視点を持つことを目標とする。</p> <p>【授業の概要】 日本の中央部に位置する岐阜県は、1876（明治 9）年、飛騨国と美濃国を統合して成立した。県域は、「飛山濃水」という言葉に象徴されるように、対照的な自然環境を有し、そのもとで過去から現在へと、個性的な地域社会が営まれてきた。講義では、主に岐阜・西濃の歴史・文化をとりあげ、古文書などの具体的な史料に即して地域の特質を探っていく。</p>		
授業科目名	岐阜学 「岐阜を考える」	担当教員名	加納 正二

授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	岐阜キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 岐阜県について、その歴史、産業、人口、雇用、観光、文学などさまざまな観点からの学際的な知識を身につけ、岐阜県について説明することができる。</p> <p>【授業の概要】 岐阜県について、その歴史、産業、人口、雇用、観光、文学などさまざまな観点からの学際的な知識を紹介する。</p>		
授業科目名	スポーツトレーニング概論「競技・生活のパフォーマンス向上を狙った筋力・パワートレーニング」		
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス・岐阜キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	(羽島 C) 前期 (岐阜 C) 後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 講義で学んだ理論を実践できるようになる。 根拠をもってトレーニングプログラムを作成・提案できるようになる。 「なぜ？」と聞かれた時に答えられるようになる。</p> <p>【授業の概要】 「なぜ、そのトレーニングをするのか？」根拠をもって実践できるようになることを目指します。 競技・生活のパフォーマンス向上を狙ったトレーニング、特に筋力トレーニング・パワートレーニングについてトレーニングの理論（組み立て方・考え方）を学ぶとともに、理論を実践できるように、トレーニングプログラムを段階的に作成していきます。さらに、トレーニングをどのように進めたら良いのか、トレーニング効果を計画的に積み上げていく事例について学びます。</p>		
授業科目名	現代社会と福祉「生活問題対策としての社会福祉」		
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス・岐阜キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	前期・後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 この授業では、現代社会で起きているさまざまな生活問題を取り上げ、その対策の一つである社会福祉について学ぶ。具体的には、こどもや障害児・者、高齢者、地域などが抱える問題を、ミクロ・メゾ・マクロの視点から考察する。 具体的な到達目標は、下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について理解する。 2 社会福祉の発達の過程と方向性について理解する。 3 福祉サービスの提供方法と組織運営の原則について理解する。 4 社会福祉従事者の現状及び専門職制度について理解する。 5 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解する。 <p>【授業の概要】 この授業では、①現代社会における社会福祉の理念と意義、②社会福祉の発達の過程と方向性、③福祉サービスの提供方法と組織運営の原則、④社会福祉従事者</p>		

の現状及び専門職制度、⑤ 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向、について身近に起きている具体的問題を取り上げながら学ぶ。受講生には受動的な授業参加姿勢でなく、常に自らの問題意識と照らし合わせながら主体的な姿勢で臨むことを希望する。

※授業内容は 2025 年度現在